

心不全の biological therapy の現状

演 題: 心不全の biological therapy の現状

演 者: 佐藤志樹 特任講師 国際統合医科学インスティテュート (IREIIMS)

(本務: 東京女子医科大学 医学部 心臓血管外科)

日 時: 平成20年10月20日(月) 17:30 ~ 18:30 講演

18:30 ~ 19:00 意見交換

場 所: 中央校舎 401 教室

☆ セミナー親睦会 19:00 ~ 東京女子医科大学西病棟B 地下1階レストラン「コルネット」

親睦会費 一般 1,000円、学生 500円



心不全診断後4割が1年以内に死亡(英国)

今日の薬物治療・外科治療の飛躍的な進歩にもかかわらず、虚血性心疾患および心不全は多くの臨床医にとって今なお頻繁に遭遇する疾患の一つです。ヒトの心臓は極めて限られた再生機能しかもたないため、心筋梗塞による多量の心筋細胞喪失は非梗塞域の心筋細胞にも影響を与え、心室のリモデリング、心不全を発症すると言われていています。このような心不全は、患者の高齢化・冠疾患を含めた心疾患患者の予後延長に伴い今後その発症頻度は増加することが予想されているため、医療経済に与える影響も大きいとされています。イギリス心臓財団の統計によれば、心不全診断後1年以内に40%の患者は死亡するとされ、心不全発症後の実質的な予後の改善はきわめて困難と言えます。したがって、その予後は多くの悪性疾患と比較しても良好とは言えず、心不全の代表的な原因疾患である虚血性心疾患に対する治療戦略、その後の心不全治療は未だ現代医学における大きな問題点として残っているのが現状です。

新たな治療戦略 遺伝子治療および細胞移植治療

しかしながら、近年、心不全の発生機序に関する分子生物学的研究の成果は、この悪性疾患に対して、biological therapy という新たな治療戦略を生み出しつつあります。本セミナーでは、その代表である遺伝子治療および細胞移植治療に関する現状に関して報告します。

連絡先: 東京女子医科大学

国際統合医科学インスティテュート (IREIIMS)

事務局 ダイヤルイン (03) 5269-7425